

1. 事業報告並びに事業計画

- (1-1) 日本放射線影響学会第 66 回大会 (2023 年) の準備状況 (大会長: 柿沼志津子 会員)
- 1-1-1 開催日: 令和 5 年 (2023 年) 11 月 6 日 (月) ~ 8 日 (水)
- 1-1-2 開催場所: グランドニッコー東京台場 (東京都港区台場 2-6-1)
- 1-1-3 テーマ: 「放射線の真の理解 ~社会との調和と共生を目指して~」
- 1-1-4 副大会長は小林純也 副理事長、実行委員長は中島徹夫 会員 (量子科学技術研究開発機構)、事務局長は飯塚大輔 学術評議員で運営する。
- 1-1-5 演題は、シンポジウム 5 題、ワークショップ 5 題、及び教育セッション 1 題を予定しており、現在、一般演題を募集している。また、一部のシンポジウムは ICRP2023 参加者にも聴講可能にする予定である。
- 1-1-6 本大会は現地開催を原則とするが、オンライン配信が行われるシンポジウムや一部のセッションに参加が可能な「オンライン参加」枠を設ける。
- 1-1-7 ICRP2023 との同時開催のため、ポスターセッションと懇親会 (Gala Dinner) は合同で行う。ICRP2023 が行う e-ポスターに影響学会参加者も発表可能となる。一方で、ICRP2023 との合同ポスターセッションの日程 (11 月 7 日午後) の関係上、会員総会、授賞式、受賞講演等を 11 月 8 日午後にせざるを得ず、例年の大会とは異なる進行となる点にご留意いただきたい。一人でも多くの会員にご参加いただきたい。
- (1-2) 日本放射線影響学会第 67 回大会 (2024 年) の準備状況 (大会長: 岡崎龍史 学術評議員)
- 1-2-1 開催日: 令和 6 年 (2024 年) 9 月 25 日 (水) ~ 27 日 (金) + 28 日 (土)
SIT (Scholars in Training) ワークショップは 9 月 24 日 (火) に計画 (会場仮押さえ)
- 1-2-2 開催場所: 北九州国際会議場 (北九州市小倉北区浅野 3 丁目 9-30)
- 1-2-3 テーマ: 「語ろう!放射線」
- 1-2-4 4 大シンポジウムテーマ 医療被ばく、低線量放射線影響、放射線教育、原子力・放射線災害対応、それぞれ演者数名に内諾済み。
- 1-2-5 実行委員長は香崎正宙 学術評議員 (産業医科大学)、プログラム委員長は小嶋光明 理事で運営する。
- 1-2-6 令和 6 年 9 月 28 日 (土) に第 12 回日本放射線事故・災害医学会 (会場: 北九州国際会議場) も主催する。27 日に放射線教育と原子力・放射線災害対応のシンポジウムを行う予定で、これらを含めて合同開催する。
- 1-2-7 「医療被ばく」のシンポジウムは放射線影響懇話会 (会長: 岡崎龍史 学術評議員) と共催予定である。
- 1-2-8 懇親会を 9 月 27 日 (金) に検討している。
- (1-3) 日本放射線影響学会第 68 回大会 (2025 年) の準備状況 (大会長: 田代聡 理事長)
- 1-3-1 開催日: 令和 7 年 (2025 年) 10 月 24 日 ~ 26 日
- 1-3-2 開催場所: 広島国際会議場
- 1-3-3 テーマ: (仮) 原爆被爆 80 年からの放射線影響研究
- (1-4) 共催・協賛・後援
- 1-4-1 令和 4 年 (2022 年) 9 月 1 日 (木) ~ 令和 5 年 (2023 年) 5 月 31 日 (水) までに共催・協賛・後援を決定した学術集会等は下記参照。
- 【後援】福島県基金事業報告会、主催: 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門 放射線医学研究所 福島再生支援研究部、開催日: 令和 5 年 (2023 年) 2 月 24 日 (金)、開催場所: コラッセふくしま ハイブリッド形式
 - 【後援】QST 量子生命・医学部門 第 1 期中長期計画研究成果発表会「”量子”と”生命・医学”の難しくない話」、主催: 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構量子生命・医学部門、開催日: 令和 5 年 (2023 年) 1 月 29 日 (日)、開催場所: オンライン
 - 【共催】原子力総合シンポジウム 2022、主催: 日本学術会議 総合工学委員会 原子力安全に関する分科会、開催日: 令和 5 年 (2023 年) 1 月 26 日 (木)、開催場所: 日本学術会議講堂およびオンライン
 - 【共催】第 24 回「環境放射能」研究会、主催: 高エネルギー加速器研究機構放射線科学センター 日本放射化学会 α 放射体・環境放射能部会、開催日: 令和 5 年 (2023 年) 3 月 6 日 (月) ~ 8 日

(水)、開催場所：高エネルギー加速器研究機構、オンライン

- 【協賛】第4回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム、主催：公益社団法人 日本工学会、開催日：令和5年（2023年）3月4日（土）、開催場所：オンライン
- 【後援】INTERNATIONAL YGN WORKSHOP ON CHALLENGES OF RADIATION PROTECTION 2023、主催：Japan Health Physics Society (JHPS), Young Researcher's Association of JHPS (JHPS YRA)、開催日：November 8, 2023、開催場所：オンライン

(1-5) 各種推薦

- 1-5-1 アジア放射線研究連合次期幹事として田代聡 理事長（広島大学）と松本義久 常任理事（東京工業大学）と富田雅典 常任理事（一般財団法人電力中央研究所）を推薦した。
- 1-5-2 公益財団法人：放射線影響協会の依頼に基づき、今岡達彦 副理事長（量子科学技術研究開発機構）をICRP 調査・研究連絡委員会委員（2号委員）に推薦した。任期は令和5年（2023年）7月1日から令和7年（2025年）6月30日である。

(1-6) 理事会の開催

令和4年度第5回理事会（令和4年（2022年）9月14日（水））を対面形式で、第6回理事会（令和4年（2022年）10月12日（水）～10月14日（金））、第7回理事会（令和4年（2022年）12月5日（月）～12月7日（水））、第8回理事会（令和5年（2023年）2月1日（水）～2月3日（金））、第9回理事会（令和5年（2023年）3月1日（水）～3月3日（金））、第10回理事会（令和5年（2023年）3月24日（金）～3月27日（月））をメール会議で開催した。令和5年度第1回理事会（令和5年（2023年）4月18日（火）～4月20日（木））、第2回理事会（令和5年（2023年）6月5日（月）～6月8日（水））をメール会議で開催した。

(1-7) 社員総会の開催

令和4年度第2回社員総会（令和4年（2022年）9月14日（水））を対面形式、令和4年度第3回社員総会（令和5年（2023年）2月17日（金）～2月24日（金））をメール会議で開催した。

(1-8) 会員総会の開催

会員総会を令和4年（2022年）9月16日（金）に対面形式で開催した。

(1-9) 監事選挙

令和4年度第7回理事会において原田浩 学術評議員、平山亮一 学術評議員、三浦富智 学術評議員、保田浩志 学術評議員の計4名を選挙管理委員会委員に選任し、委員間の互選により平山亮一 学術評議員を委員長と決定した。令和4年12月22日（木）～令和5年1月18日（水）を届出期間とし、1月31日（火）～2月7日（火）にウェブ投票が行われ、2月7日に選挙管理委員会による開票、集計が行われ、島田義也 会員、松浦伸也 会員の当選が決定した。選挙結果については、2月9日（木）に会員マイページ及び学会通信を通じて、会員に公開された。

2. 各委員会からの活動報告及び活動予定

(2-1) 財務委員会（委員長：細谷紀子 副理事長、副委員長：田代聡 理事長）

- 2-1-1 随時、予算の執行状況を調査し、特段の問題が無いことを確認した。
- 2-1-2 令和5年度（2023年度）の収支予算書の修正を実施した。
- 2-1-3 令和4年度（2022年度）の決算書類（出納帳データと証憑ファイル）の確認を行った後、会計事務所に決算報告書の作成を依頼した。会計事務所が作成した決算報告書を確認の上、監事2名に監査を依頼し、承認をいただいた。
- 2-1-4 科研費（令和1～5年度）によるJRR誌の支援を継続中。2022年度、2023年度は、40歳以下の若手研究者を第一著者とする原著論文（Regular paper、Short communication）、および、全ての年代の研究者を第一著者とする総説（Review）に対し、年間15篇程度を上限に、掲載費用の支援を行う方針としている。2022年度は応募のあった5件に対し、出版費用援助（掲載費を学会からOUPへ直接支払い、著者の支払いを免除）を実施した。2023年度は、現在までに応募のあった1件に対し、出版費用援助を実施した。
- 2-1-5 令和4年（2022年）10月にハワイで開催されたRadiation Research Society（RRS）Annual MeetingにおけるRRSと本学会の共催シンポジウムにおいて、本学会からの推薦で招待講演をされた福島県立医科大学臨床検査医学講座の志村浩己氏より、シンポジウムでの発表内容を筆頭責任著者としてまとめた原著論文「Confounding factors and biases involved in regional differences in the detection rate of thyroid cancer in the second-round thyroid ultrasound examination: The Fukushima Health Management

Survey」が JRR 誌に投稿され、令和 5 年（2023 年）5 月 8 日付で掲載が決定した。令和 4 年度（2022 年度）の科研費からの志村氏の RRS 参加旅費援助に続き、令和 5 年度（2023 年度）の科研費から志村氏の JRR の論文に対する出版費用援助を実施した。

2-1-6 令和 6 年度（2024 年度）以降に新たに科研費を獲得できるよう、申請の検討を開始している。

2-1-7 令和 5 年（2023 年）6 月 25 日に財務委員会を開催予定である。

(2-2) 編集委員会（委員長：近藤 隆 監事、担当理事：松本義久 常任理事）

2-2-1 計画通り JRR 誌を定期的に発行した。

2-2-2 疫学分野の担当者が少ない事情もあり、新しく Associate editor を選任した。

2-2-3 寺島論文賞候補論文に関して、2023 年度 Journal of Radiation Research 寺島論文賞は、例年通り公募する。

(2-3) 広報出版委員会（委員長：富田雅典 常任理事、副委員長：大野みずき 学術評議員、論文紹介企画小委員会委員長：安井博宣 学術評議員）

2-3-1 昨年度より運用を開始したメーリングリスト (eikyo_tsushin-ml@criepi.denken.or.jp) による学会通信配信を随時実施した。添付ファイルは自動暗号化されるため、添付ファイルの配信希望がある場合、会員マイページ「学会通信配信一覧」に添付ファイルとともに掲載した後に、「添付ファイルあり。会員マイページから閲覧・ダウンロード可。」の旨を記載して、テキストのみをメール配信している。会員からの配信依頼を Forms で受け付けることにし、徐々に定着してきた。令和 4 年（2022 年）は、280 件配信した。令和 5 年（2023 年）は 6 月 9 日（金）時点で 93 件配信している。配信担当者（委員長）の負担軽減のため、年末・年始に加え、夏季にも 1 週間の配信休止期間を設ける予定。現在の登録者数は 699 名（昨年の現メーリングリスト運用開始時は 726 名）である。

2-3-2 学会ホームページの更新を随時実施するとともに、更新・活用されていないページの削除や誤字の修正等を行った。

2-3-3 英語版 Web ページの素案を作成した。一部内容の確認・修正後、11 月の学術大会までの公開を目指す。また、バナー広告を掲載するために公式サイトでの改修を検討した。今後、掲載基準と料金を確定し、運用を開始する予定である。

2-3-4 令和 4 年（2022 年）は計 12 件の論文紹介を掲載した。令和 5 年（2023 年）は 6 月 6 日（火）までに 11 件掲載した。

(2-4) 放射線災害対応委員会（委員長：松本義久 常任理事、副委員長：宇佐美徳子 会員）

2-4-1 委員会はメール会議を中心に進めており、これまでに以下の事案に対応した。

2-4-2 令和 4 年（2022 年）の放射線セミナーは、15 回実施した。郡山市教育研修センターとの連携による郡山市内小中学校での 14 回に加え、南会津中学校で 1 回実施した。内訳は中学校 4 回、小学校 11 回（6 校）、現地での対面実施が 13 回、オンラインが 2 回であった。今年の放射線セミナーは東工大基金理科教育振興支援「ものづくり人材の裾野拡大ならびに STEM 教育の推進支援プロジェクト」の採択を受けた。また、派遣旅費の一部を京都大学大学院生命科学研究科附属放射線生物研究センター、量子科学技術研究開発機構から支援を受けた。

2-4-3 令和 5 年（2023 年度）の放射線セミナーについては、現時点で 13 回の希望がある。そのうち 6 月 11 日までに 4 回を実施した。

2-4-4 一般の方からの問い合わせ 2 件に回答した。

2-4-5 5 月 10 日にオンラインで開催された福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会（ANFURD）第 8 回全体会議並びに原子力防災ウェビナーに宇佐美副委員長が参加した。全体会議においては、本学会の取り組みについての報告を行った。

(2-5) 企画委員会（委員長：田代聡 理事長、副委員長：笹谷めぐみ 学術評議員、自然災害対応担当理事：田代聡 理事長、SIT プログラム小委員会委員長：平山亮一 学術評議員）

2-5-1 令和 5 年（2023 年）の第 66 回大会は、柿沼志津子 会員（量子科学技術研究開発機構）を大会長として東京で開催する。なお、第 66 回大会は日本保健物理学会と国際放射線防護委員会（ICRP）シンポジウムと合同で行う予定である。

2-5-2 令和 6 年（2024 年）の第 67 回大会は、岡崎龍史 学術評議員（産業医科大学）を大会長として福岡で開催する。なお、第 67 回大会の一部を日本放射線事故・災害医学会と共催して行う予定である。

2-5-3 令和 7 年（2025 年）の第 68 回大会は、田代聡 理事長（広島大学）を大会長として広島で開催する。なお、第 68 回大会は第 6 回アジア放射線研究会と合同で行う予定である。

2-5-4 SIT (Scholar-in-Training) プログラム小委員会が、第 65 回大会前日（2022 年 9 月 14 日（水））に、第 2 回 SIT ワークショップを開催した。

- 2-5-5 日本アイソトープ協会が主催するアイソトープ・放射線研究発表会へ協賛学協会として企画運営に参画し、パネル討論の企画を提案した。
- 2-5-6 放射線リスク・防護検討委員会との合同により、第1回ICRP次期主報告ウェビナー(2023年4月28日(金))を開催した。
- 2-5-7 令和5年(2023年)第1回社員総会(2023年6月25日(日))と同時開催のキャッチアップセミナーを企画した。
- (2-6) グローバル化委員会(委員長:今岡達彦 副理事長、副委員長:三浦雅彦 学術評議員、若手部会部会長:神崎訓枝 会員、FLASH研究部会部会長:平山亮一 学術評議員)
- 2-6-1 ICRRは令和5年(2023年)8月27日~30日にカナダ・モントリオールで開催予定である。本件情報を収集し、広報出版委員会(委員長・富田雅典 常任理事)から会員に向けて情報をメール配信する。
- 2-6-2 ICRP2023のサテライトイベント(日本放射線影響学会(JRRS)主催、日本放射線腫瘍学会(JASTRO)生物部会後援、日本学術振興会(JSPS)研究拠点研究事業協賛)として、第66回大会に申請した企画「Next generation of radiotherapy and radioprotection based on precise radiosensitivity」が採択された(JRRS側オーガナイザー:原田浩 学術評議員、JASTRO生物部会側オーガナイザー:松本義久 常任理事)。令和5年11月6日13:15~15:15に開催。放射線影響協会及びJARRに海外研究者招へい旅費の助成を申請中である。
- 2-6-3 本学会とJASTROの覚書に基づく合同企画として、令和5年(2023年)は、JASTRO第36回学術大会(大会長:茂松直之 理事長、会場:パシフィコ横浜ノース)にて学会合同シンポジウム(日本放射線影響学会)「放射線増感効果が期待できる新薬」(日時:12月1日(金)14:20~16:20、座長:原田浩 学術評議員・三浦雅彦 学術評議員、演者:柴田淳史 学術評議員、石川仁先生(QST)、高橋智聡先生(金沢大学)、山本昇先生(がんセ・中央病院))を開催予定である。
- 2-6-4 第65回大会では、若手部会会員総会を開催し、英国CRUK/MRC Oxford Institute for Radiation Oncology・京都大学大学院生命科学研究科附属放射線生物研究センター 諏訪達也 会員に若手優秀論文賞表彰を授与した。また、若手部会からの企画でワークショップ「核医学でがん治療の未来を切り拓く」を開催した。令和5年1月7日には、第2回若手放射線影響研究会を日本酸化ストレス学会若手の会の後援で開催し、北海道大学大学院獣医学院 応用獣医科学分野 加藤千博 会員に若手優秀発表賞を授与した。さらに、若手会員のキャリアパス支援を目的とした検討を開始し、令和5年4月11日~30日でアンケート調査を行って結果を取りまとめているところである。現在、第66回大会での若手部会会員総会とワークショップの開催、令和5年9月28日の第3回若手放射線影響研究会の準備を進めている。令和5年6月8日時点での部会員数は79名(令和4年9月2日時点:73名)であり順調に増加している。
- 2-6-5 FLASH研究部会では、国内でのFLASH研究を実施している施設や実施を予定している研究施設、研究組織をリストアップして、会員への情報公開に向けてとりまとめを行っており、今後も継続する。
- (2-7) キャリアパス・男女共同参画委員会(委員長:飯塚大輔 学術評議員、副委員長:石川純也 学術評議員、担当理事:坂田律 理事)
- 2-7-1 第65回大会の1日目(令和4年(2022年)9月15日(木)11:50~13:10)に、第9回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー『現代のライフイベントから学ぶ研究者の持続可能なライフプランとは?』を開催した。今回のセミナーでは、さまざまなライフイベントについて、仕事との両立の難しさ、どのように乗り越えようとしたのか、などに関し、リアルタイムアンケート、特別講演とパネル討論を通して理解を深めることを目指した。詳細な開催報告については、委員会HPからダウンロード可能である。
- 2-7-2 第65回大会における属性調査として、参加者と演題発表者の女性比率について、大会長のご協力を得て、参加登録者情報、大会プログラムなどから算出した。第65回大会の参加者の女性比率は21.8%で、学会員における女性比率(22.6%)と比べて遜色ない数字であった。また、一般口演の発表者の女性比率は25.9%、ポスター発表者の女性比率は32.6%であり、特に女性研究者からのポスター発表の積極的な応募があったことが伺えた。集計結果は、委員会HPからダウンロード可能である。次回の第66回大会でも、オンラインでの大会参加登録時に属性調査を実施いただくよう、大会長にご協力をお願いしていく。
- 2-7-3 令和4年(2022年)9月16日から10月14日にかけて、Googleフォームを利用した「2022年度キャリアパス・男女共同参画アンケート」を学会員を対象に実施し、第9回委員会企画セミナーの感想や今後のセミナーへの要望、第66回~第67回大会での開催地での保育サービスの利用のニーズ、様々な事情やニーズを抱える会員が学会の活動により参加しやすくするための提案、キャリアパス・男女

共同参画活動に関する意見・要望を広く収集した。第9回委員会企画セミナーについては、特別講演の眞理子先生（大阪公立大学）のご講演やダイバーシティに富んだ6名のパネリストの活発な議論が行われたことに対し、幅広い年代の参加者にご好評いただいたことが分かった。今回は第65回大会長のご配慮で、当委員会企画セミナーと同時並行で開催されるセッションがなく、100名を超える参加者があったが、用意した軽食が足りず、軽食無しでご参加いただいた方や、参加をあきらめた方もいたと聞いている。第66回大会では、できるだけご参加いただける方に軽食を配布したいと考える。大会開催地での託児のニーズは、第66回大会（東京）で子ども1名、第67回大会（北九州）で子ども1名という結果であった。さらに家庭の事情で小学生2名の保育サービスが必要になる可能性があるという要望があった。様々な事情やニーズを抱える会員が学会の活動により参加しやすくするための提案として、「託児費用援助制度」の継続の希望のほか、年次大会のオンライン開催併用ならびに本委員会企画セミナーのハイブリッド開催を希望する声が今年度も多く聞かれた。2021年（令和3年）度第9回理事会において取り上げられ、企画委員会で議論されていると伺っているが、継続した議論をお願いしたい。集計結果は、学会の委員会HPからダウンロード可能である。

- 2-7-4 第65回大会は現地開催されたことから、託児費用援助制度の募集を行った。期限は大会終了後の令和4年（2022年）9月20日から10月31日まで行ったが、応募はなかった。このコロナ禍では、子連れでの学会参加にいくつもの難しい判断を迫られてしまい、参加自体を諦めたり、参加期間を短縮した会員もいたのかもしれない。第66回大会でも大会長と連携し、引き続き本制度を運用していきたい。
- 2-7-5 令和4年（2022年）10月8日（土）に第20回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムがハイブリッド開催された。例年通り、シンポジウム資料集に本学会のキャリアパス・男女共同参画に関する活動報告を掲載した。
- 2-7-6 若手部会キャリアパス支援の活動への後援を行い、第66回大会で開催予定のワークショップにも演者の推薦を行った。
- 2-7-7 学会通信やホームページを活用した情報発信を適宜行った。

(2-8) 規約委員会（委員長：小林純也 副理事長、副委員長：鈴木正敏 学術評議員）

- 2-8-1 第2回委員会を令和4年（2022年）10月27日（木）にオンラインで開催し、前理事会から申し送られている選挙制度の課題について議論し、監事選挙において推薦委員会を設置して、自薦・他薦と並立して推薦委員会から候補者推薦する案をとりまとめ、理事会に報告、意見聴取を行った結果について委員会で検討を進めており、「理事・監事選挙で候補者定員以下の場合の投票省略」と合わせて、選挙制度の改定案を第2回社員総会での審議に間に合うように手続き行う予定である。
- 2-8-2 会員規程において、終身会員になるための会員期間（制限はないため、入会の翌年に65歳を越え、かつ終身会費を支払えば、正会員からの移行が可能）、賛助会員の団体会委員の会費（1口5万円と定められるが、現状と合致していない）について検討を始めるべく、情報収集を行っている段階である。
- 2-8-3 第66回大会のシンポジウム・ワークショップ募集において、企業（営利事業を活動目的とする法人を含む）に所属する非会員が発表を行う場合は、学術的内容の発表であること（企業宣伝や企業の利益誘導につながる内容でないこと等）を確認するため、該当する場合は企画提案書提出前に大会事務局に相談してもらうように、募集要項に記載してもらうこととした。企業所属者は発表時に企業宣伝等を行ったとしてもCOI開示の対象ではなく、非会員のため、利益相反（COI）マネジメントに関する指針を熟知してもらう事にも限界があるため、今回の対応を行った。

(2-9) 賞等選考委員会（委員長：坂田律 理事、副委員長：篠原美紀 会員）

- 2-9-1 日本学術振興会賞、日本学術振興会育志会、文部科学大臣賞等、事務局宛に届いた受賞候補者推薦募集をメーリングリストを通じて行ったが、学会推薦への応募はなかった。今後も外部からの候補者推薦については随時対応する予定。
- 2-9-2 17th International Congress of Radiation Research（ICRR2023）の旅費援助の募集を行った（6月15日締切）。

(2-10) 学術委員会（委員長：坂田律 理事、副委員長：篠原美紀 会員）

- 2-10-1 アイソトープ・放射線研究発表会、藤原セミナー、キャノン財団2023年度研究助成プログラム等、関連学会の行事開催案内、助成募集案内をメーリングリストを通じて会員に周知した。今後も事務局宛に届いたこれらの情報の会員への周知に努める予定である。
- 2-10-2 「公益財団法人未来工学研究所」より、学会が主催した国際的な研究集会（外国機関からの参加者がいる集会）についての文科省調査への回答依頼があり、調査対象期間に開始された第64回大会参加者について大会長の田内広 学術評議委員の協力の下、回答した。文部科学省のウェブサイトにおいて、調査結果の報道発表資料と、調査報告書が公表されている。

(2-11) 倫理委員会（委員長：田内広 学術評議員、担当理事：富田雅典 常任理事）

2-11-1 理事等の利益相反確認について、改訂された要項に従った申告書が該当者から提出され、委員会での確認作業を実施した。委員会としての確認結果は2022年10月31日付にて理事長へ報告した。

(2-12) 教育研修委員会（委員長：吉野浩教 理事、副委員長：野田朝男 会員）

2-12-1 日本放射線影響学会第65回大会が主催する市民公開講座「もっと知ろう！-くらしと放射線」が令和4年（2022年）9月17日（土）に開催された。

2-12-2 一般の方からの研修に関する問い合わせ1件に回答した。

2-12-3 日本放射線影響学会第66回大会事務局の依頼を受け、66回大会における市民公開講座の企画案を検討し、案を提出した。

2-12-4 放射線影響研究所が主催する生物学者のための疫学研修会が令和5年（2023年）度も開催される予定で、現在準備中とのことである。

2-12-5 教育研修委員会の企画「六ヶ所村次世代エネルギーパーク及び日本原燃の見学会」を令和5年（2023年）9月29日（金）に開催予定である（前日の9月28日には第3回若手放射線影響研究会が弘前大学大学院保健学研究科にて開催される予定）。

(2-13) 放射線リスク・防護検討委員会（委員長：小嶋光明 理事、副委員長：小林純也 副理事長）

2-13-1 ICRP 次期主勧告ウェビナーを企画委員会とともに4回にわたって開催する（資料2-13-1）。第一回は4月28日（金）の16時から開催した。影響学会会員のみならず、関連学会からも多数の参加があり、計208名となった。また、影響学会会員限定で6月15日までオンデマンド配信を行っており、現時点で46回の視聴があった。ICRPの次期主勧告に関心が高まっていることがうかがえた。第二回は6月16日（金）の16時から開催予定である。現時点での参加申し込み数は270名となっている。

2-13-2 今後の活動内容については、ICRP次期主勧告ウェビナーを通して見えてきた放射線防護につなげるための放射線影響研究の課題を整理し、「放射線生物研究（赤本）」にまとめる予定である。

(2-14) 学会事務局

2-14-1 会員動向：令和4年（2022年）8月31日（水）現在（括弧内は令和4年（2022年）5月31日（火）時点「マイページ」登録者数*在籍者のみ）

- 名簿（「マイページ」登録者）：学会員総数780（762）名・うち女性176（174）名
正会員587（581）名・うち女性140（140）名、学生会員71（56）名・うち女性24（18）名、海外会員18（18）名・うち女性2（2）名、名誉会員39（42）名・うち女性0（0）名、功労会員6（6）名・うち女性0（0）名、終身会員59（59）名・うち女性10（10）名。

2-14-2 会員動向：令和5年（2023年）6月1日（木）現在（括弧内は令和4年（2022年）8月31日（水）時点「マイページ」登録者数*在籍者のみ）

- 名簿（「マイページ」登録者）：学会員総数740（780）名・うち女性162（176）名
正会員567（587）名・うち女性134（140）名、学生会員47（71）名・うち女性14（24）名、海外会員10（18）名・うち女性1（2）名、名誉会員40（39）名・うち女性1（0）名、功労会員7（6）名・うち女性0（0）名、終身会員69（59）名・うち女性12（10）名。

以上

ICRP 次期主勧告ウェビナー

【主催】日本放射線影響学会（放射線リスク・防護検討委員会、企画委員会）

【開催日】2023 年 4 月 28 日（金）、6 月 16 日（金）、8 月 4 日（金）、
10 月 27 日（金）

【開催方法】オンライン開催（Zoom）

【参加費】無料

【定員】各回 300 名 * 先着順

【趣旨】

日本放射線影響学会（放射線リスク・防護検討委員会と企画委員会による合同企画）では、この度、「ICRP 次期主勧告ウェビナー」を 4 回にわたって開催することに致しました。

前回の主勧告（ICRP Publication 103 ; 2007 年発行）から 15 年以上が経過しました。ICRP は、これまでに蓄積されてきた最新の科学的知見を基に、主勧告の改定に向けて検討を開始したところです。次期主勧告は 2030 年ごろに発表予定といわれています。次期主勧告により、放射線防護の考え方や枠組みに関する変更が予想され、法令改正を含めた対応が必要になると考えられます。本ウェビナーでは、ICRP で活動している先生方を中心にお招きして、次期主勧告に関する最新の疫学・生物影響に関する動向を中心に解説して頂きます。

本ウェビナーを通して、1)放射線防護や ICRP の活動への関心を広げる、2)次期主勧告（疫学・生物影響に関して）で何が変わろうとしているのかを知る、3)防護に繋げるための生物研究の課題を参加者と共に見出していく、ことを考えております。

【第一回 のプログラム】

第一回（4 月 28 日（金））16:00～17:30

座長：小嶋光明（大分県立看護科学大学）

1) 放射線生物研究の意義と今後期待される生物研究 16:10～16:50

講師：島田義也 先生（環境科学技術研究所）

2-1) ICRP2023 の紹介 16:55～17:15

講師：神田玲子 先生（量子科学技術研究開発機構）

2-2) 日本放射線影響学会第 66 回大会の紹介 17:20～17:30

講師：柿沼志津子 先生（量子科学技術研究開発機構）

第二回（6月16日（金））16:00～18:15

申し込み期限：6月13日（火）まで

座長：孫略（産業技術総合研究所）

- 1) 電離放射線の非がん影響（眼疾患、循環器疾患、神経疾患）16:05～17:05
講師：浜田信行 先生（電力中央研究所）
- 2) 低線量・低線量率における放射線リスク推論 17:10～18:10
講師：甲斐倫明 先生（日本文理大学）

第三回（8月4日（金））16:00～17:55

申し込み：6月16日以降に開始予定

座長：小林純也（国際医療福祉大学）

- 1) RBE、線質係数、および放射線加重係数 16:05～16:45
講師：佐藤達彦 先生（日本原子力研究開発機構）
- 2) 放射線の継世代影響：マウスでは観察されてヒトでは観察されない理由
16:50～17:50
講師：中村 典 先生（放射線影響研究所）

第四回（10月27日（金））16:00～

申し込み：8月4日以降に開始予定

座長：戒田篤志（東京医科歯科大学）

- 1) 原爆被ばく者の固形がんにおける線量反応関係の最近の知見
講師：坂田 律 先生（放射線影響研究所）
- 2) 医療ひばく者の健康リスク
講師：吉永信治 先生（広島大学）

【お問い合わせ先】

日本放射線影響学会放射線リスク・防護検討委員会

小嶋光明 / 恵谷玲央

E-mail: jrns.rrp@gmail.com